

ごあいさつ

## 統合から5年 —さらなる発展を目指して—



代表取締役社長  
武部 俊郎

高岳製作所と東光電気が統合してから5年が経ちました。毎年発行してきた技報も本号で第6巻になります。

東光高岳グループは、電力分野を中心に変圧器、遮断器、断路器などの電力機器、変電所などの監視制御システムならびにスマートメーターなどの計量機器を製造・販売してまいりました。また国が主導するスマートグリッド実証事業に参画し、新島において風力・太陽光発電を単独系統に連系して制御するなどの技術開発は、本技報においてもその一端を紹介してきております。

社会に目を転じますと、この5年間で電力システムを取り巻く環境は大きく変化し、変化の度合いはさらに加速する様相を呈しております。FIT（固定価格買取制度）に由来する再生可能エネルギーのような自然変動分散電源の拡大に対する需給・系統制御、世界的なEV（電気自動車）普及にかかわる充電インフラ、異常気象や巨大地震に対するレジリエンスなどの課題は、国際的にも議論が重ねられてきております。

東光高岳グループとしましては、このような環境変化の中で以下の3つの視点で技術開発を進めております。

まず「電力分野での競争力向上」です。自由化で厳しい経営環境にある電力各社にとって、設備の維持更新においてより一層の効率化は必須です。既存の設備更新において今までとはレベルの異なる原価低減やサプライチェーン全体の改革を追求するとともに、設備のコンパクト化、設備データの遠方監視によるクラウド上での故障予知診断など、新たなサービス提供を目指してまいります。

次に「新たな電化時代への提案」です。社会の脱炭素化が進む中で、EVに代表されるように社会システム全体として電化は進展していきます。そしてその普及拡大には、賢い電化をサポートする最先端のデジタル技術が物をいいます。東光高岳グループはEV急速充電器における国内トップシェアの強みを活かし、ハード面の技術開発のみならず充電データ活用などのサービス領域に事業を拡大していきたいと考えています。

最後に「海外展開」です。電力の送配電システムは各国各様であり、現地のニーズに整合した送配電ネットワーク高度化の提案が必要です。わが国にない技術開発には現地企業とのアライアンスによるオープンイノベーションも図ってまいります。

以上3つの視点で、常に進取の気鋭をもって電力利用の高度化をリードする技術開発を進めてまいりますので、今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。